

## 明治 HD 系、小田原に次世代新型コロナワクチン工場 28 年稼働

4/15 日本経済新聞



神奈川県小田原市に建設する mRNA 工場の外観イメージ

明治ホールディングス（HD）傘下の Meiji Seika ファルマ（東京・中央）は 15 日、新型コロナウイルスのワクチン工場を神奈川県小田原市に建設すると発表した。メッセンジャーRNA（mRNA）技術を使ったワクチンを製造する。

同社の mRNA ワクチンは米バイオ企業アークトウルス・セラピューティクスが開発したワクチンで、国内では 2023 年 11 月に「コスタイベ」の名称で製造販売承認を取得した。投

与後に体内で mRNA を自己複製する「レプリコンワクチン」と呼ばれるタイプで、Meiji Seika ファルマが日本での製造・販売権を取得している。

小田原の工場は 2028 年の稼働を見込んでいる。製剤棟は地上 3 階建て、建築面積は約 3700 平方メートル。ワクチン生産体制の強化を支援する経済産業省の事業費補助を利用する。将来パンデミック（世界的な大流行）が起きた際には日本国民が必要とするワクチンを供給する拠点として機能することを見込む。

## 米モデルナ、アフリカ工場新設を保留 ワクチン低迷で 2024 年 4 月 12 日日本経済新聞



米モデルナは新型コロナワクチンの需要低迷に直面している=ロイター

【ニューヨーク=西邨紘子】米製薬モデルナは 11 日、ケニアでのメッセンジャーRNA（mRNA）ワクチン工場の新設計画を保留すると発表した。アフリカ地域向けの供給拠点として 2022 年に建設を決めたが、その後新型コロナウイルスワクチンの需要が急減。早急な需要回復が見込めないとして工場建設を遅延し、新薬開発などに投資資金を振り

向ける。モデルナは 22 年 3 月、工場の建設に最大 5 億ドル（約 760 億円）を投じ、年間最大 5 億回分のワクチンを生産する投資計画でケニア政府と覚書を交わしていた。

計画保留の理由について「22 年以降にアフリカ地域から新型コロナワクチンの注文を受けおらず、工場新設を進める需要環境がない」（同社）と説明した。アフリカ地域でのワクチン需要低迷と購入計画キャンセルなどにより、これまでに 10 億ドル規模の損失が生じたという。

新型コロナのパンデミックでは、ワクチン実用化の当初、供給量が限られ、アフリカなど資金力が乏しい新興国で接種が遅れる問題が発生。その後、各国政府や国際機関の後押しを受けて、製薬各社にワクチンや治療薬の現地生産を検討する動きが相次いだ。

だがパンデミック収束以降は、コストや技術移転の問題がネックとなり、計画の進展が遅れている。世界保健機関（WHO）が進める非常時の新興国でのワクチン生産支援などを含む「パンデミック条約」も交渉難航が伝えられる。